



TITLE:

デュナミス第2号 巻頭の辞

AUTHOR(S):

山口, 巖

CITATION:

山口, 巖. デュナミス第2号 巻頭の辞. ことばの構造とことばの論理: 山口巖教授停年記念論文集 1998: 814-811

ISSUE DATE:

1998-07

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/65756>

RIGHT:

『デュナミス』第2号 1998年3月10日。

デュナミス 巻頭の辞

Nihil est in intellectu,
quod non prius fuerit in sensu.
— J. Locke

Nihil est in rebus,
quod ante non fuerit in verbis.
— A. M. Peshkovsky

DYNAMIS も第2号を刊行する運びになった。またこの講座から2名が無事博士課程に進学することになった。共に慶賀すべきことである。山口は本年を以てこの大学を去るが、この紀要の周りにあった諸君が、やがてこの講座の趣旨を周縁領域に止めることなく、中心領域として独自の学問体系を構築し得る日の、一日も早く来たらんことを願っている。今後の健闘を祈る次第である。

山口 巖
洛東研究室にて
1998年3月